

西モンゴル、ハンタイシルオフィオライトの地質および固体地球化学的研究

Geological and geochemical feature of the Hantaishir ophiolite complex, Western Mongolia

Lkhamsuren Bayarmandal [1]

Bayarmandal Lkhamsuren [1]

[1] 東北大学大学院理学研究科地球物質科学科

[1] Institute of Mineralogy, Petrology and Economic Geology, , Tohoku Univ

Bayarmandal@hotmail.com

ハンタイシルオフィオライトはモンゴル国の南西に、首都ウランバートルから1000 kmはなれてある。オフィオライトの長さは50 km、幅が10 - 12 kmであって、北西から東南へ細長い形である。このオフィオライトは下部において蛇紋岩、ハルツバージャイトとダナイトからなっており、上部では斑レイ岩、ドレライト、溶岩とチャートが見られる。

ハルツバージャイトとダナイトは蛇紋岩化作用をうけてある。Sheeted dike はポニナイトとソレアイト安山岩の二タイプからなっており、溶岩は安山岩組成である。

この研究では次の結果が出た： ハルツバージャイト組成とN-MORB規格化図からハンタイシルオフィオライトはSSZセッティングでできたと考えられる。N-MORB規格化図と微量元素のパターンから安山岩と溶岩はソレアイトである。溶岩は安山岩組成である。クロムスピネルの組成からハンタイシルオフィオライトはSSZ(supra subduction zone)に、島弧にとても近い所にできたと考えられる。